

(様式4)

令和2年度自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立 泊小学校

校長名 栗原 歳盛 印

1. 学校の教育目標

豊かな心と確かな学力を持ち、ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓き、たくましく生きる児童の育成

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成

- 1単位時間で本時のねらいを達成できる授業づくりを推進する。
- 単元づくりや学習過程を創意工夫し、授業改善に取り組み、言語活動の充実を図る。
- ペア学習・グループ学習や情報機器の効果的な活用方法を工夫しながら、積極的活用を行う。
- 少人数指導を生かした個別指導、MIM指導、朝の活動、放課後学習等の充実とともに、一斉指導での個別対応を含めた授業改善を図る。
- 校内授業研究会を充実し、学校全体での授業スタイルを整えながら授業力の向上を図る。
- 本格実施となる外国語科・外国語活動の授業づくりに取り組む。
- 家庭学習の手引きや「家庭学習がんばりカード」を活用しながら、家庭学習の習慣化とともに、自主学習につながる家庭学習へつなげたい。
- 図書館利用の推進を図り、読書の習慣化を進めるとともに、授業の単元に関する図書の活用の充実を図る。

(2) 潮風の中でたくましく生きる心と体の育成

- 全校集会(あったか集会、しおかぜ集会等)の取組、縦割り班活動をより充実させる。
- 道徳教育、人権教育、特別支援教育を推進し、思いやり豊かな心を育成する。
- より良い言葉遣いのあり方については重点的に指導する。
- 潮風タイム(業間運動)等、学校全体で取り組み、体力の向上を図っていく。
- 食育指導を行い、健康な体づくりに関心を持たせるとともに、児童の基本的な生活習慣に関する意識の向上を図る。

(3) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり

- 地域教材・人材等を生かした総合的な学習の時間の推進を図る。
- 特色ある教育活動とふるさと学習の充実を図りながら推進するとともに、招待給食・しおかぜカフェの取組の充実をさせ、家庭・地域と共通の目標に向かってともに歩んでいく。
- 学校だより、学級だよりを創意工夫し、子どもの活動の様子・子どものよさを積極的に情報発信する。
- ホームページを活用し、旬な情報を発信する。

(様式4)

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由
(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成 ○1 単位時間で本時のねらいを達成できる授業づくり B ○単元づくりや学習過程を創意工夫し、授業改善に取り組み、言語活動の充実を図る。 B ○ペア学習・グループ学習や情報機器の効果的な活用 B。 ○少人数指導を生かした個別指導、MIM指導、朝の活動、放課後学習等の充実、一斉指導での個別対応等授業改善 A ○校内授業研究会を充実し、学校全体での授業スタイルを整えながら授業力の向上を図る。 A ○本格実施となる外国語科・外国語活動の授業づくりに取り組む。 B ○家庭学習の手引きや「家庭学習がんばりカード」を活用しながら、家庭学習の習慣化とともに、自主学習につながる家庭学習へつなげる。 B ○図書館利用の推進を図り、読書の習慣化を進めるとともに、授業の単元に関する図書の活用の充実を図る。 A	B	・校内研究では国語科の授業研究を進めた。3年目の本年は「話す、聞く」領域の研究を深めることができた。毎回、次からの共通実践に生かせるようまとめて提示して取り組んだので、毎時間共通実践を積み上げていこうとする意欲が高い。また、初めに自分の伸ばしたい力をしっかり持ってから学習を展開させるよう意識し、児童が主体的に取り組む学習が少しずつ積み上がってきている。授業研究会を授業力向上にいかした教職員評価は昨年度より20%増加している。 ・毎時間のねらいを明確にし、振り返りまでいくことが定着してきている。 ・児童アンケートでは、「話し合うと勉強がよくわかるか」について84%が、「学校の勉強はだいたいわかるか」については85%の児童が肯定的に答えており、高い数値であることから「話すこと・聞くこと」を意識した展開を学習全般に取り組んでいると言える。 ・学習内容の活用を目指し、日々の学校生活とつなげながら取り組んでいる。スピーチやテーマでトーク、全朝の話の感想を書くなど計画的に取り組んだ。 ・学力向上目指し、情報機器の活用に努めた。視覚的支援により学習理解が進んだ。「ペア学習やグループ学習、視聴覚機器の活用」の項目に対する教職員評価は昨年より18%増加している。来年度に向けて情報関連の研修を5回実施している。 ・家庭学習について「家庭学習がんばりカード」で点検すると、とても充実している児童が多い。しかし一方で充実を図りたい児童もいる。全体として家庭学習の充実が図っていけるよう取り組みを続けたい。
(2) 潮風の中でたくましく生きる心と体の育成 ○全校集会(しおかぜ集会等)の取組、縦割り班活動を充実させる。 B ○道徳教育、人権教育、特別支援教育を推進し、思いやり豊かな心を育成する。 B ○より良い言葉遣いのあり方については重点的に指導する。 B ○いじめに係る児童の実態を把握	B	・コロナウィルス拡大防止に心がけ、手洗い、マスク、三密の防止等によく努力し、健康にとっても留意したくらしができた。 ・水泳や陸上競技の放課後の練習に学校体制で取り組み、子どもたちの力が伸びてきている。短い練習時間での取り組みを工夫していきたい。 ・出来る範囲ではあるが、縦割り班でのふれあい活動や掃除等で、上級生からのいい声かけが多く見られた。さらに充実した活動ができるよう工夫した活動を計画したい。 ・いじめの早期発見早期対応を目指し、組織的に取り組

(様式4)

しながら、毎月定例会で生徒指導事例を考察し、指導に生かす。A ○学校全体で体力の向上を図っていく。B ○食育指導を行い、健康な体づくりに関心を持たせるとともに、児童の基本的な生活習慣に関する意識の向上を図る。B		めている。定例のいじめ対策委員会を開き、全体で共通理解することで一貫した指導が出来ている。継続して注意深く児童の関係を把握していきたい。 ・言葉遣いをはじめとする気持ちの良い友達とのかかわりへの指導の継続が必要である。 ・家庭でのゲーム使用時間、メディアとの関わり等について家庭と連携して進めていく必要がある。 ・自他ともに大切にしたい、命・こころとからだを守っていこうとする態度を、今後一層取り組んでいく。交通安全、生活安全の意識高揚を一層図っていく。
(3) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり ○地域教材・人材等を生かした総合的な学習の時間の推進を図る。A ○特色ある教育活動とふるさと学習の充実を図りながら推進する。A ○学校だより、学級だよりを創意工夫し、子どもの活動の様子・子どものよさを積極的に情報発信する。B ○ホームページを活用し、旬な情報を発信する。A	A	・ホームページの更新、学年・学級だよりの発行により子どもたちの頑張っている様子を地域、家庭にお知らせすることができた。 ・昨年のようななかよしグラウンド・ゴルフ大会等が実施できていないが、総合的な学習の時間や社会科、生活科、家庭科の学習で地域に出かけて話を聞いたり、ゲストで教室に来ていただいて地域の願いや新しい取り組みを知ったりする学習が進んだ。「地域の施設や外部人材を活用し特色ある教育活動とふるさと教育を推進した。」についての教職員アンケートでの評価は昨年と比べて15%増加していることから学習の工夫が分かる。 ・地域の方との関わりの機会に、あいさつや言葉遣いの課題、コミュニケーションの課題を改善していくような活動になるように取り組み方を考えていく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	「わかる授業の創造と確かな学力の育成」「潮風の中でたくましく生きる心と身体の育成」「ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり」の3点を重点目標に掲げ取り組んできた。校内研究では、大切にしたい学習のポイントを明確して進めたので各学級での共通実践が進んだ。情報発信にも心がけた。地域の建物や産業、人材を生かしふるさとと関わりながら学習を進めることができていると感じている。 課題としては、児童の特性・実態に応じた学習や生活指導の充実や、学校内や地域でのあいさつ、言葉遣い児童の生活習慣等に課題がある。これらの課題に向けて、家庭、地域とも連携しながら取組を進めていきたいと考える。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

(様式4)

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
(1) わかる授業の創造と 確かな学力の育成	・校内研究の総括の中で、国語科「話すこと・聞くこと」についてさらに伸ばしていきたい点は、他者の意見をしっかり聞き、自分と比較したり、考えたりして深める力を伸ばすこと ・学習の中でかかわりあう力を伸ばすこと ・多様な児童、個に応じた指導 ・情報機器を活用した、授業づくり、 ・家庭学習の定着、発展に向けての家庭との連携
(2) 潮風の中でたくましく 生きる心と体の育成	・生活時程変更に伴う校内での体力増進計画の見直し（持久力、走力等の向上） ・メディアに係る課題、基本的生活習慣の課題に向けての家庭との連携 ・言葉遣い、気持ちの良い友達との関わりが課題となる児童が多いこと ・自他ともに大切にする態度、命、心と身体を大切にする実践力
(3) ふるさを誇りに思 う児童の育成と開かれた 学校づくり	・情報発信の継続、 ・本校の課題を共有の中での地域との協力体制 ・お世話になった方、お世話になる方と向かい合い、交流を進めること